

新庄村振興計画・総合戦略における各種施策の進捗状況（令和６年度末時点）

<評価基準> ５：120％以上達成 ４：100％以上120％未満 ３：80％以上100％未満 ２：50％以上80％未満 １：50％未満

施策	内容	現状・課題・今後の展開	目標内容	集計期間	当初 (R元時点)	目標 (R6末時点)	実績 (R6末時点)	達成率	評価
目標３ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる			今後もこの地域で子育てをしていきたいと思う割合	年間	54.5%	60.0%	44.4%	74.0%	2
⑩テレワーク事業の推進	企業のバックオフィスなどの一部移転を働きかけ、既に村内で登録しているテレワーカーの雇用と結びつけることで村内経済への波及と子育て中のお母さんでも働きやすい環境の整備を目指す。	現時点では、テレワークやサテライトオフィスに特化した募集活動は行っておらず、村内での創業を希望される事業者に対しては、サテライトオフィス開設を選択肢に含む相談対応を中心に進めている。 過去に県の補助メニューを活用して、費用負担の軽減が実績に結びついた背景を踏まえ、今後も丁寧な対応を心がていく。 ただし、現時点で事業自体の進展は限定的なため、事業の加速を見据えた新たな取り組みも視野に入れていきたい。	企業の一部移転数	累計	0社	1社	2社	200.0%	5
⑪移住促進住宅の整備	移住施策を進めるうえでの足かせとなっている住宅不足を解消するため住宅の整備を促進する。	定住促進住宅の整備を進めているが、いまだ移住者に対する住宅が不足している状況が続いている。村が整備した公営住宅の運営には、長期的に維持管理費が必要となるため、民間事業者が整備した住宅の借り上げ等も選択肢に含めながら、移住施策とも連携した今後の整備方針を検討していきたい。	整備した住宅の数	累計	0戸	5戸	8戸	160.0%	5
⑫小中一貫教育の充実	小中学校の施設が一体型となっている点を有効に活用した職員室の一本化や、「地域の学校」として空き教室の有効利用、保育所を含めた給食を提供する学校給食センターの施設整備を進めることで、質の高い教育の提供や効率的な組織体制を実現する。	職員室の一本化に伴い空き施設となった小学校管理棟1階を子ども第三の居場所として整備したことで、全世代が交流できる場所として、学校内施設を含めた運用を行っている。保育所を含めた学校給食センターの施設整備は今後、具体的な議論を開始する。ICTや校務支援システムの活用により、教職員の指導力向上や授業改善等に取り組んでいる。具体的には、先進校視察や校内研修、公開研究授業を継続して実施する。	-	-	-	-	-	-	-
目標４ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する			暮らしやすい村と思う割合	年間	37.0%	40.0%	46.0%	115.0%	4
⑬健康寿命の延伸と介護予防の充実	日常生活において、村民が継続的に健康管理や健康づくりの推進に取り組むことができるよう、健康増進施設の整備や健康情報の提供を推進する。また、特定健診や特定保健指導等を通じて生活習慣病の予防を図る。	①特定健診・特定保健指導の受診率向上についての取り組みは、がん検診との同日実施や、地域の愛育委員と協働しての声かけ訪問による受診勧奨等を継続して行っている。また、住民の健康づくりについては運動教室や高齢者サロンに保健師や栄養士が関り、健康相談や知識の普及等を行っている。 ②健診も運動教室・サロン等も、住民の固定化が課題となっている。 ③今までの方法を継続すると共に、国保新規加入のタイミング等機会をとらえた周知・啓発を行っていく。	特定健診受診率（国保）	年間	62.5%	67.0%	53.1%	79.3%	2
⑭高齢者住宅の整備	高齢者本人が安心して暮らせるようにするとともに、離れて暮らす家族の負担を軽減するため、高齢者住宅の整備を検討する。	令和５年度に実施した新庄村介護保険計画策定委員会及び福祉施設整備検討委員会で高齢者住宅整備について検討した結果、今後は高齢者住宅と老朽化した公民館機能を集約した複合施設整備について検討を行うこととなった。地域のニーズに合わせ、福祉避難所等の必要な機能を集約した施設整備について検討を進めたい。現在検討会を開催しており、今年度中には方向性を決めて行く予定で、今後施設の視察を行っていく予定。	高齢者住宅の戸数	累計	0戸	4戸	0戸	0.0%	1
⑮憩いの場の整備	地域住民の交流や憩いの場として、空き家を活用した子どもから高齢者まで気軽に訪れることができる図書室などを整備する。また、学校図書館や公民館図書室ともネットワーク化することにより、村民が自由に村内の図書を利用できるようにする。	図書室などの憩いの場については、令和７年4月から運用する教育振興基本計画・後期計画の策定委員会で議論を行い、整備に向けた施策の方向性を示した。学校と公民館の図書ネットワーク化は実施済みであり、相互の蔵書の閲覧や貸出しが可能となっている。また、上述の福祉避難所等機能を集約した複合施設との併設とも並行して検討を行い、費用対効果を見極めながら、今後の在り方について検討していきたい。	整備した憩いの場の数	累計	0箇所	1箇所	0箇所	0.0%	1
⑯地域内交通網の充実	真庭市から乗り入れているコミュニティバス「まにわくん」や村内を巡回する「しんじょうくん」といった既存の公共交通サービスを活かしながら、地域住民による送迎サービスの導入など、その他の移動手段について検討する。	「しんじょうくん」以外にも社会福祉協議会が福祉医療バスも村内で運行させているため、村内での移動手段は概ね確保出来ていると考える。一方で、村外への移動手段が「まにわくん」に限定されるため、高齢者の通院・買い物等の移動手段確保が課題となっている。今後他の関係機関と連携しながら解決に向けた施策の検討を行う。	増加した移動手段の数	累計	0	1	0	0.0%	1